



診察室の午後

白浜はまゆう病院
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

20年ほど前、私はテキサス州ヒューストンの大学に留学し、当地で家族とともに約4年間過ごした。ヒューストンでは、例年2月の終わりから3月にかけて、ロデオヒューストンと呼ばれるロデオと家畜の品評会がある。

ロデオ開催の前の週の金曜日は「Go Texan Day」と呼ばれ、学校や職場やレストランなどいたるところで、皆が西部劇で出てくるような服装をする慣例になっている。

すなわち、カウボーイハット、ブーツ、ジーンズを着用するのである。テキサスではこれが正装である。ちなみにヒューストンには

〈24〉 Go Texan Day （「テキサスに行こう」の日）

何もなかった所に観覧車やメリーゴーラウンドがいきなり出現する移動式の遊園地は、何となくノスタルジックでもあった。農作業のいろいろな機械の展示もあり、自動車メーカーは美しい自家用トラックなどを並べていた。

私たちが家族も、にわかカウボーイ、カウガールになり見物に行った。ロデオ競技の開会式では、観衆は起立し、女性歌手がアリーナ

中に届く澄みきった声で国歌を歌った。競技は、暴れ馬や裸馬や暴れ牛に乗るもの、一定の場所に置いたたを回って乗馬で突っ走るもの、馬上からロープで家畜を捕らえ縛るものなどであった。

馬を含めたあらゆる家畜以外に、ゾウやラクダやトラまでいた。まるで仮設の動物園であり、こちらも人々にぎわっていた。

テキサス州はアメリカ合衆国の中でも独特である。変わっていると揶揄(やゆ)されることもあるようだが、テキサス人は自らの文化や慣習や生活に誇りを持っている。農家の子どもたちは、自分が育てた家畜がこの品評会で賞をとると、表彰され高額の奨学金を与えられる。

もともと州の権限が強い地方分権のアメリカ合衆国と比較するのも妥当ではないかもしれない。しかし、日本では「地方再生・活性化」がうたわれてはいるものの、首都圏一極集中である。過疎と高齢化に歯止めがかからない「地方」はどうなってしまうのだろうかと考えたりする。